

日 本 国 特 許 庁

JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the ~~Quoted~~ is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:



2001年 4月16日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-117243

出 願 人

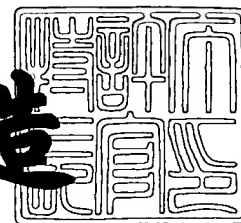
Applicant(s):

株式会社河合楽器製作所

2001年 5月30日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3048484

【書類名】 特許願

【整理番号】 01KG045

【提出日】 平成13年 4月16日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B27D 1/00

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県浜松市寺島町 2 0 0 番地 株式会社河合楽器製作  
所内

【氏名】 佐野 善昭

【特許出願人】

【識別番号】 000001410

【氏名又は名称】 株式会社河合楽器製作所

【代理人】

【識別番号】 100095566

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 友雄

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 059455

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9702481

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 木質化粧成形品の製造方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 木材をスライスすることにより形成した突板に所定の塗装処理を行い、

当該塗装した突板に補強材を接着剤で接着することにより突板シートを作製し

当該作製した突板シートにさらに塗装処理または含浸処理を行い、

この突板シートを金型内にセットし、

前記金型内の前記突板シートの裏面側に溶融した合成樹脂を射出して射出成形を行い、前記突板シートと前記合成樹脂を一体化することを特徴とする木質化粧成形品の製造方法。

【請求項 2】 前記接着剤として有色接着剤を用いることを特徴とする、請求項 1 に記載の木質化粧成形品の製造方法。

【請求項 3】 前記射出成形の後、前記突板の表面にトップコート塗装を行うことを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の木質化粧成形品の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車の内装部品、家具や家電製品などに用いられる、表面側に突板を、裏面側に合成樹脂を配置した複合構成の木質化粧成形品の製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来のこの種の木質化粧成形品の製造方法として、例えば特公平 7 - 1 1 5 3 8 0 号公報に開示されたものが知られている。図 3 に示すように、この製造方法ではまず、木材を薄くスライスした突板 5 1 を準備し（同図（a））、次に、突板 5 1 の裏面に金属薄板などから成る補強材 5 3 を接着剤 5 2 で接着することによって、突板シート 5 4 を作製する（同図（b））。次いで、突板シート 5 4 の

突板 51 に着色または染色やトップコート塗装などの塗装処理を行う（同図（b））。この突板 51 の着色・染色は、突板 51 の木目を強調することで、より美しい仕上がりを得るために行われる。次に、金型（図示せず）内に突板シート 54 をセットし、その裏面側に溶融した合成樹脂を射出することにより、突板シート 54 の裏面に合成樹脂から成る基材 55 が一体化されるとともに、全体として所定形状に成形された木質化粧成形品 56 が得られる（同図（c））。

## 【0003】

## 【発明が解決しようとする課題】

上述したように、この従来の製造方法では、突板 51 に補強材 53 を接着剤 52 で接着した後に、突板 51 に対して着色・染色などの塗装が行われる。このため、着色や染色を行う際には、突板 51 の導管や繊維の中に接着剤 52 がすでに染み込んだ状態になっている。その結果、着色剤や染料が、接着剤 52 で妨げられることにより、突板 51 の導管や繊維の中に十分に浸透できないため、着色・染色を十分に行えず、突板 51 の美しい木目が得られないという問題がある。

## 【0004】

本発明は、このような課題を解決するためになされたものであり、着色や染色により突板の木目が強調された美しい仕上がりが見られるなど、突板への塗装効果を十分に確保できるとともに、仕上げ工程の簡略化によって生産を効率的に進めることができる木質化粧成形品の製造方法を提供することを目的とする。

## 【0005】

## 【課題を解決するための手段】

この目的を達成するため、本発明の木質化粧成形品の製造方法は、木材をスライスすることにより形成した突板に所定の塗装処理を行い、塗装した突板に補強材を接着剤で接着することにより突板シートを作製し、作製した突板シートにさらに塗装処理または含浸処理を行い、この突板シートを金型内にセットし、金型内の突板シートの裏面側に溶融した合成樹脂を射出して射出成形を行い、突板シートと合成樹脂を一体化することを特徴としている。

## 【0006】

この木質化粧成形品の製造方法によれば、まず突板に所定の塗装処理を行い、

その後、塗装した突板に補強材を接着剤で接着することにより突板シートを作製し、その突板シートにさらに塗装処理または含浸処理を行い、次いで、作製した突板シートを金型に配置し、合成樹脂とともに射出成形することによって、木質化粧成形品を製造する。このように、本発明の製造方法では、突板に補強材を接着する前に、突板にあらかじめ所定の塗装を行うので、従来と異なり、この塗装処理を、接着剤に妨げられることなく十分に行うことができ、その塗装効果を十分に確保することができる。

## 【 0 0 0 7 】

なお、本発明における突板への「所定の塗装処理」とは、例えば突板の着色や染色が代表的なものであり、その場合には、着色剤や染料が突板の導管や繊維の中に十分に浸透することで、突板の木目が強調された美しい仕上がりを得ることができる。また、作製した突板シートを、金型による成形前に、平面的なシート状態でさらに塗装または含浸するので、成形後の立体的な状態で行う場合よりも、これらの塗装または含浸処理を容易に行うことができる。またこの場合、クリヤ塗料の塗装やクリヤ樹脂の含浸を下塗りや中塗りとして施すことで、仕上げ工程を簡略化することができる。その結果、生産が効率的に進められ、コストの削減につながる。なお、突板の表面には、「所定の塗装処理」がすでに施されていて、その後、上記のような突板シートへの下塗りや中塗りとしての塗装または含浸が、突板の表面に上乘せした状態で行われるので、塗装または含浸を接着剤に影響されることなく良好に行うことができる。

## 【 0 0 0 8 】

この場合、接着剤として有色接着剤を用いることが好ましい。

## 【 0 0 0 9 】

この製造方法によれば、補強材を接着するのに用いた有色接着剤が、塗装処理後の突板の内部に染み込むことによって、突板の木目がより強調されるとともに、突板の色調や色の深みなどを、有色接着剤の色に応じて変化させることができる。

## 【 0 0 1 0 】

これらの場合、射出成形の後、突板の表面にトップコート塗装を行うことが好

ましい。

#### 【0011】

この製造方法では、突板の表面にトップコート塗装を行うことにより、木質化粧成形品の表面の平滑性が増すことで、より美しい仕上がりが得られるとともに、表面が保護されることで、耐久性を高めることができる。また、下塗りおよび中塗りをすでに行っている場合は、トップコート塗装を上塗りだけで簡単に済ませることができる。

#### 【0012】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施形態を、図面を参照しながら、詳細に説明する。図1は、本発明の第1実施形態による木質化粧成形品の製造方法を示している。同図(f)に示すように、この木質化粧成形品8は、表面側の突板シート4と、その裏面に射出成形された合成樹脂から成る基材6とを備えている。また、突板シート4の表面には、クリヤ塗膜層5とトップコート塗膜層7が順に形成されている。

#### 【0013】

突板シート4は、同図(b)に示すように、突板1と、その裏面に接着剤2を用いて接着された補強材3によって構成されている。突板1は、木質化粧成形品9を化粧するものであり、ウォルナットやメイプルなどの木材を厚さ0.2mm程度に薄くスライスすることにより形成されている。また、突板1には、その木目を強調して美しい仕上げを得るために、染色が施されている。接着剤2は、任意の材料で構成することが可能であり、本実施形態では無色のものが採用されている。

#### 【0014】

補強材3は、割れやすい突板1を補強するとともに、基材6を射出成形により接合一体化する際のアンカリング層として機能する。補強材3の材料としては、不織布の他、織布・和紙などの繊維材料、突板、樹脂フィルムや、さらにはこれらの複合品などが採用される。

#### 【0015】

基材 6 は、木質化粧成形品 8 に強度および剛性を付与するためのものであり、突板シート 4 よりもかなり厚く形成されている。また、基材 6 は、射出成形に適し、かつ強度、耐熱性や寸法安定性などに優れた合成樹脂、例えば、ABS やポリカーボネートなどで構成されている。

【 0 0 1 6 】

クリヤ塗膜層 5 は、無色透明なクリヤ塗料などで構成されており、突板シート 4 に下塗りおよび中塗りとして塗られたものである。

【 0 0 1 7 】

トップコート塗膜層 8 は、透明なポリエステル塗料などで構成されており、木質化粧成形品 9 の表面を保護するとともに、高級感を与えるべく艶出し仕上げが施されている。

【 0 0 1 8 】

次に、上記構成の木質化粧成形品 8 の製造方法を、図 1 を参照しながら説明する。まず、上述した構成の突板 1 を準備するとともに、この突板 1 に染色処理（所定の塗装処理）を行う（同図（a））。この染色処理は、例えば、所定の色の染料を溶かした溶液中に突板 1 を浸けることで、その導管や繊維の中に溶液を浸透させた後、突板 1 を乾燥させることによって、行われる。これにより、突板 1 が染料によって一様に染色される。

【 0 0 1 9 】

次に、染色した突板 1 の裏面に補強材 3 を接着剤 2 で接着することによって、突板シート 4 を作製する（同図（b））。次いで、作製した突板シート 4 の表面に、塗装機 AM によりクリヤ塗料 A を塗布する塗装を行う（同図（c））。これにより、下塗りおよび中塗りとして、クリヤ塗膜層 5 が形成される（同図（d））。次いで、この突板シート 4 を金型（図示せず）内にセットし、この突板シート 4 の裏面側に溶融した合成樹脂を射出することで、作製した突板シート 4 の裏面に基材 6 を一体化するとともに、全体を所定形状に成形する（同図（e））。次に突板シート 4 のクリヤ塗膜層 5 の表面に、塗装機 TM により塗料 C を塗布することなどによって、上塗りとしてトップコート塗装を行い、トップコート塗膜層 7 を形成して、木質化粧成形品 8 を完成する（同図（f））。

## 【 0 0 2 0 】

以上のように、本実施形態によれば、突板 1 に補強材 3 を接着剤 2 で接着する前に、突板 1 をあらかじめ染色するので、従来と異なり、染料が、接着剤 2 に妨げられることなく、突板 1 の導管や繊維の中に十分に浸透することで、突板 1 の木目が強調された美しい仕上がりを得ることができる。

## 【 0 0 2 1 】

また、突板シート 4 の金型による成形前に、突板シート 4 に、平面的なシート状態で、クリヤ塗料 A による塗装を下塗りおよび中塗りとして施すので、成形後の立体的な状態で塗装を行うよりも、これらの塗装作業を容易に行うことができる。これによって、成形後におけるトップコート塗装を、上塗りだけで簡単に済ませることができる。その結果、仕上げ工程を簡略化することができる。なお、突板 1 の表面には、染色処理がすでに施されていて、その後、上記のように作製された突板シート 4 へのクリヤ塗料 A による下塗りおよび中塗りとしての塗装が、突板シート 4 の表面に上乘せした状態で行われるので、塗装を接着剤 2 に影響されることなく、良好に行うことができる。

## 【 0 0 2 2 】

なお、上記の実施形態では、突板シート 4 の表面に、クリヤ塗料を塗装することによってクリヤ塗膜層 5 を形成しているが、これに代えて、突板シート 4 に、接着剤や塗料などの樹脂を含浸してもよい。また、無色透明のクリヤ塗料に代えて、有色透明のものをを用いてもよい。さらに塗装の方法として、ワイピング着色を行うことも可能である。ワイピング着色とは、突板シートの表面に塗料をおき、ふき取ることによって、突板の導管や繊維の中に塗料を浸透させ、着色することである。これによって、ワイピング着色による色と、突板 1 に先に施された染色による色とが重ね合わされることによって、突板シート 4 の表面と木目の色合いをより美しく仕上げることができる。

## 【 0 0 2 3 】

また、突板 1 の表面にトップコート塗装を行うことによって、木質化粧成形品 8 の表面の平滑性が増すことで、より美しい仕上がりを得られるとともに、表面が保護されることで、耐久性を高めることができる。



【0024】

図2は、本発明の第2実施形態による木質化粧成形品の製造方法を示している。本実施形態は、上述した第1実施形態と比較し、突板1に補強材3を接着する接着剤として有色接着剤12を用いた点のみが異なるものであり、他の構成はまったく同じである。この有色接着剤12は、例えば第1実施形態で採用した無色の接着剤2に、所定の色の着色剤をあらかじめ添加したもので構成されている。

【0025】

したがって、本実施形態によれば、上述した第1実施形態による効果をまったく同様に得ることができる。これに加えて、有色接着剤12が、染色後の突板1の内部に染み込むことによって、突板1の木目がより強調されるとともに、突板1の色調や色の深みなどを、有色接着剤12の色に応じて変化させることができる。

【0026】

なお、本発明は、説明した実施形態に限定されることなく、種々の態様で実施することができる。例えば、実施形態では、突板1の塗装処理として、染色を行っているが、これに代えて、着色剤による着色を行ってもよいことはもちろんである。この場合にも、着色剤が、接着剤2、12に妨げられることなく、突板1内に十分に浸透するので、突板1の木目が強調された美しい仕上がりを得ることができる。

【0027】

あるいは、突板1の塗装処理として、染色や着色以外の適当な塗装処理を広く適用することが可能であり、それにより、その塗装効果を、接着剤に妨げられることなく、十分に確保することができる。また、実施形態で挙げた各構成要素の材質などは、あくまで例示であり、本発明の趣旨の範囲内で適宜、変更することが可能である。

【0028】

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明の木質化粧成形品の製造方法によれば、着色や染色により突板の木目が強調された美しい仕上がりを得られるなど、突板への塗装

効果を十分に確保できるとともに、仕上げ工程の簡略化によって、生産を効率的に進めることができるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 実施形態による木質化粧成形品の製造方法を示す図である。

【図 2】

本発明の第 2 実施形態による木質化粧成形品の製造方法を示す図である。

【図 3】

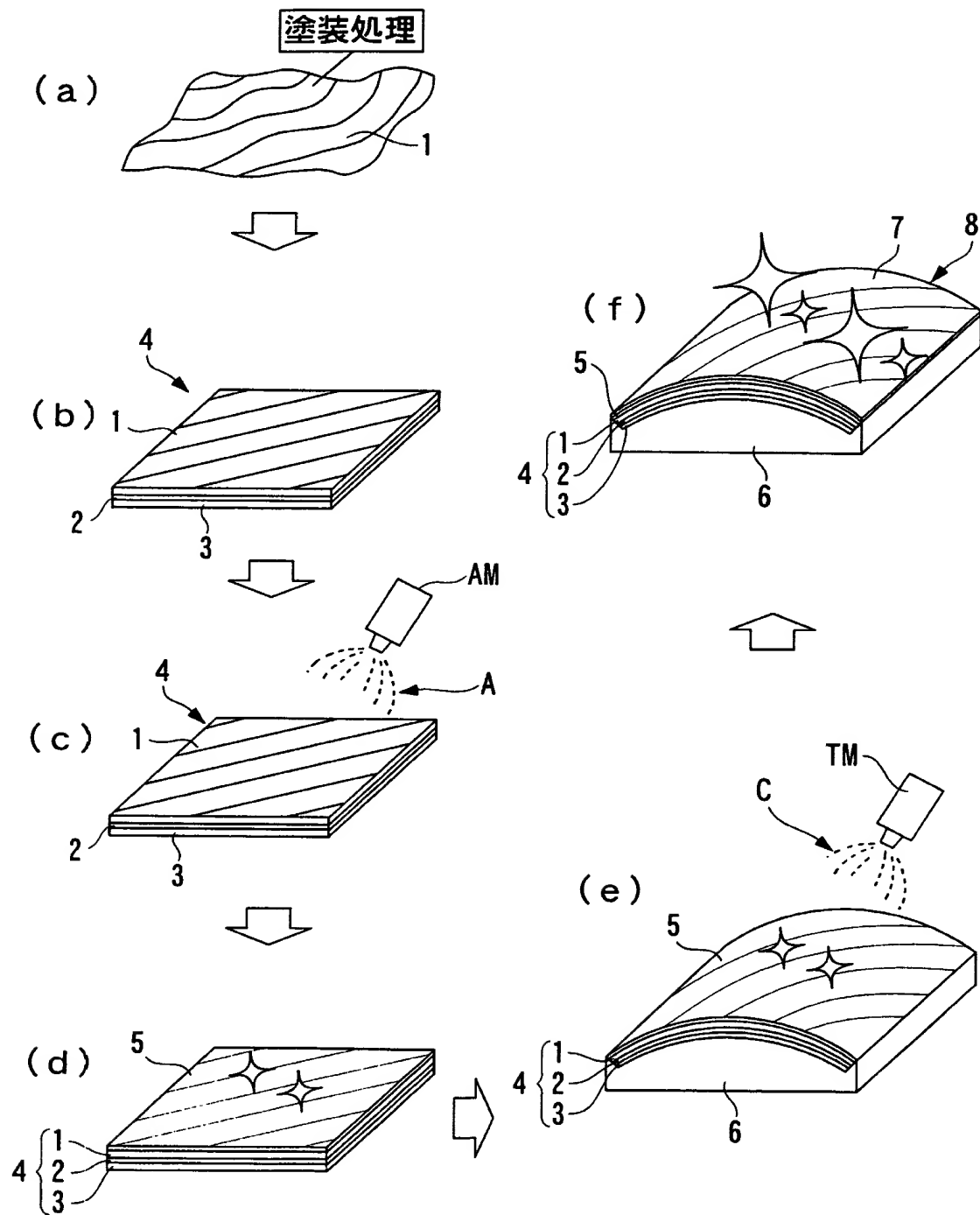
従来の木質化粧成形品の製造方法の一例を示す図である。

【符号の説明】

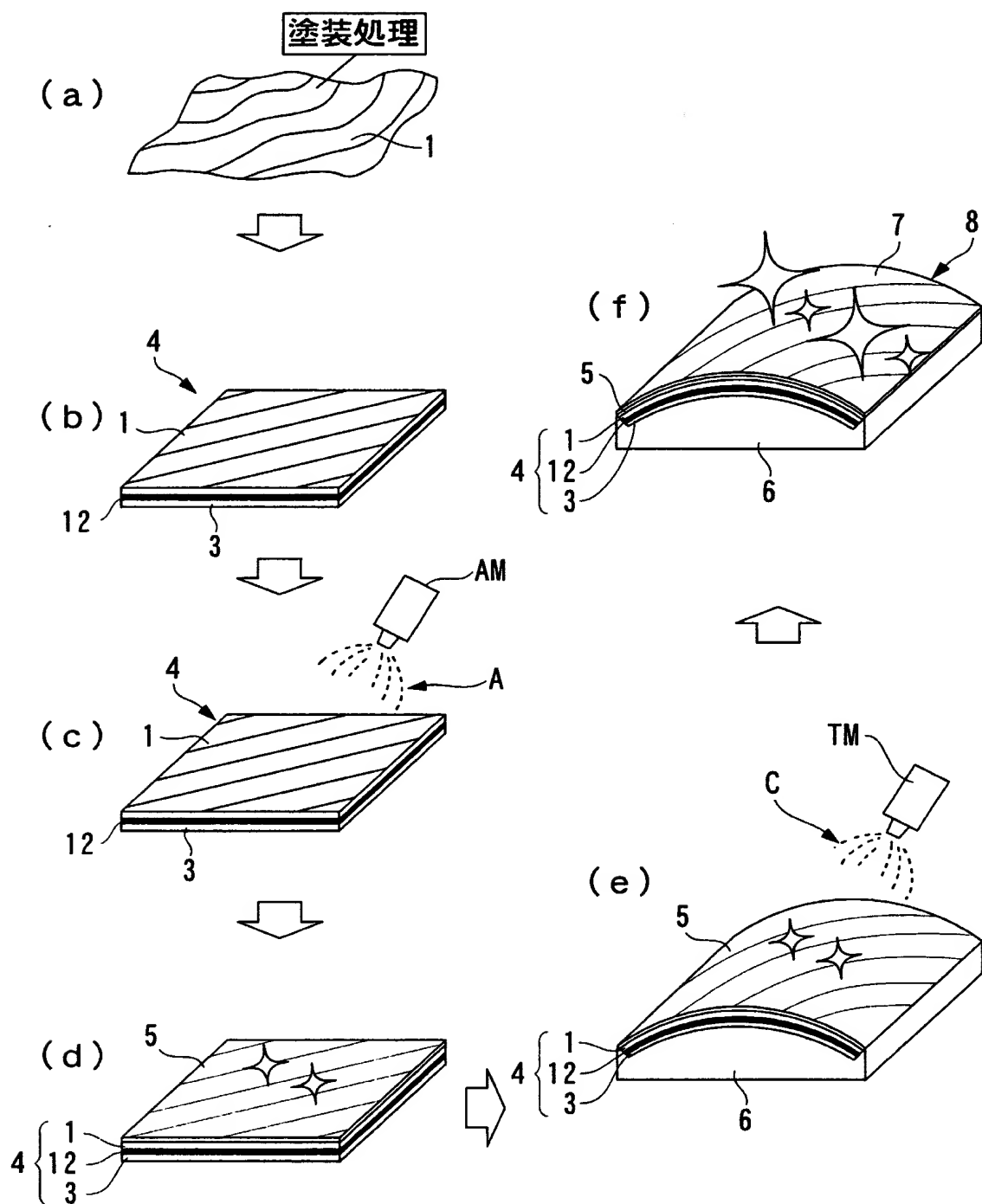
- 1 突板
- 2 接着剤
- 3 補強材
- 4 突板シート
- 5 クリヤ塗膜層
- 6 基材（合成樹脂）
- 7 トップコート塗膜層
- 8 木質化粧成形品
- 12 有色接着剤

【書類名】 図面

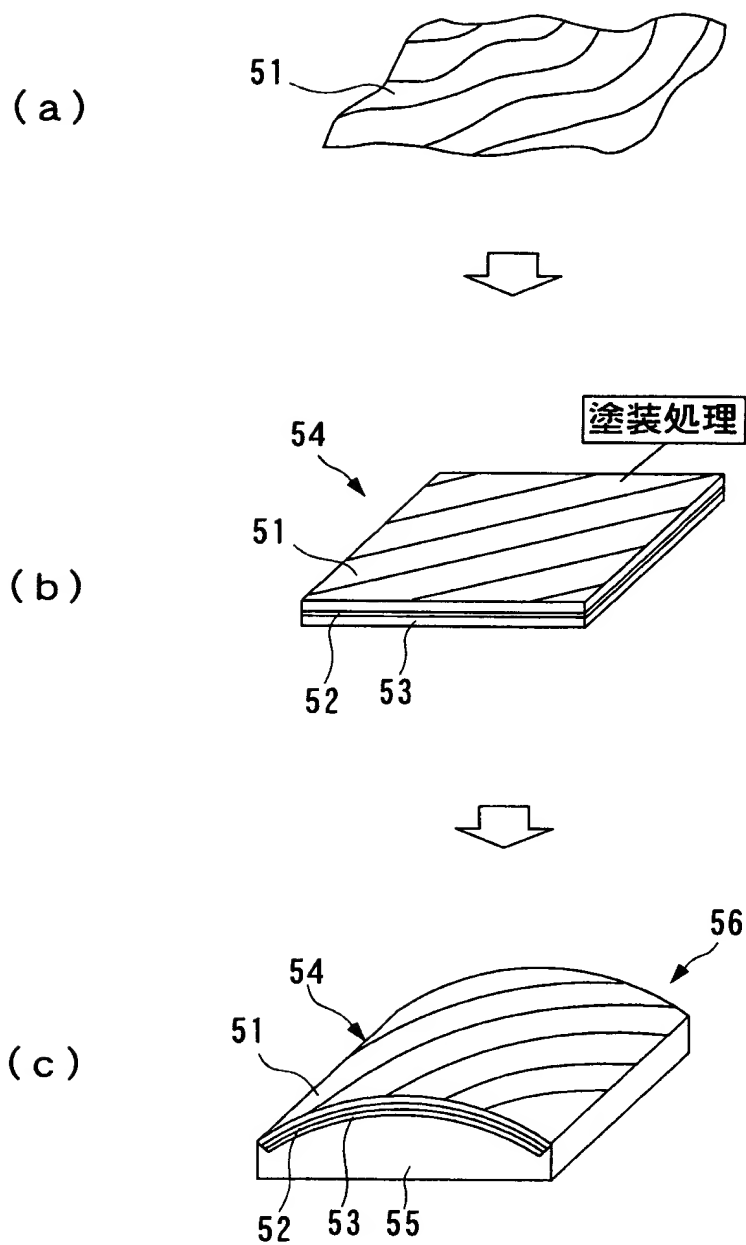
【図 1】



【図 2】



【图 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 着色や染色により突板の木目が強調された美しい仕上がりを得られるなど、突板への塗装効果を十分に確保することができるとともに、仕上げ工程の簡略化によって生産を効率的に進めることができる木質化粧成形品の製造方法を提供する。

【解決手段】 木材をスライスすることにより形成した突板 1 に所定の塗装処理を行い、塗装した突板 1 に補強材 3 を接着剤 2 で接着することにより突板シート 4 を作製し、作製した突板シート 4 にさらに塗装処理または含浸処理を行い、この突板シート 4 を金型内にセットし、金型内の突板シート 4 の裏側面に溶融した基材 6 を射出して射出成形を行い、突板シート 4 と基材 6 を一体化する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001410]

1. 変更年月日 1990年 8月10日

[変更理由] 新規登録

住 所 静岡県浜松市寺島町200番地

氏 名 株式会社河合楽器製作所